

伏見公民館だより

令和3年度第3号（令和4年3月発行）

(公財) 奈良市生涯学習財団

伏見公民館

〒631-0841 奈良市青野町二丁目

13番4号

TEL・FAX 0742-45-9864

E-mail fushimi@manabunara.jp



令和になって、コロナの感染拡大防止、東日本における地震、ロシアのウクライナ侵攻など人災天災を問わず社会情勢はあまりにも混沌として、テレビを見てもインターネットを見ても気分が滅入る悲惨なニュースばかりです。

そのような中、先日高校時代に少し興味を持った相対性理論を振り返ってみました。相対性理論とは、アインシュタインが論じた物理学の理論で、どこかに絶対的な原点を置く座標系ではなく、人によってまた立場によって互いの時空間が相対して変わるもので、簡潔に言うと、光の速さは一定だが、時空間は歪むものと捉える理論のことです。言ってみれば、時間の流れはすべてに平等ではなく、飛行機に乗っているときや地面から離れれば、時間もほんの少しであるが早く経過するということになります。「 $E=mc^2$ 」とは、エネルギー E =質量 m ×光速 c の2乗という質量とエネルギーの関係を示す式で、物質からエネルギーを引き出せるし、エネルギーから物質を生み出せるという意味です。

また、本川達夫氏の著書「ゾウの時間ネズミの時間—サイズの生物学」によると、哺乳類の様々な時間（寿命や心臓の鼓動、息をする間隔など）は、すべては体重の1/4乗に比例するそうです。すなわち、体重やサイズが大きいゾウはこれらの活動の繰り返す速度がゆっくりであり、ネズミは速くなる。また、体重が10倍になると時間は1.8倍になります。ネズミに比べてゾウはエネルギーを使わないそうです。例えば、30gのネズミと3tのゾウでは10万倍違いますから、時間も18倍違い、ゾウはネズミに比べて時間が18倍ゆっくりだということです。

いずれにしても、人それぞれ寿命が違うように、同じ1日24時間あっても、みんなその感じ方は違っているし、その時、その一瞬の重要性や大切さも違うということ。もちろん、長生きしたからと言って幸せだということはないし、早く逝ったとしても不幸だとは言いきれないと思います。だから、自分を信じて、その一瞬を大切に後悔のない生き方をしたいものです。そして、思いどおりにいかなかったとしても、他人のせいや、社会や世の中のせいにはしたくないものです。

伏見公民館では、女性フォーラムで Mr.ミロル氏によるパフォーマンスショーと閉講式を行い、伏見みやび学級でマリンパの演奏と閉講式を行いました。いずれの事業もほぼ全員参加で、大成功のもと楽しいひとときを共有することができました。また、楽しい絵本の時間も無事に終えることができ大変良かったと思います。これらの主催事業はコロナ感染拡大防止のため、上半期に実施できなかった事業も多く、それを挽回する意味でも、かなり計画を立て肝入りで取り組んだことが功を奏したようでした。また、今年度も十一月に開催を予定していた公民館まつりも中止になったため、急遽自主グループの作品展覧会を開催しました。おかげさまで大変好評でした。ただ、コーラスや詩吟等発声を伴うサークルの方々には、大変不備をおかけして申し訳なく思っています。来年度も主催事業を通して、利用者や参加者の皆様に成就感や充実感を与えていくことを常に考えながら企画運営をしていきたいと思っています。四月以降も楽しみにしてください。

日本ではそれぞれの場所にそしてそれぞれの人に同じように春という季節がやってきました。自分だけの時刻表を手にしなが、「春」という時空間を楽しみましょう。そして、その時刻表に「伏見公民館へ」と刻んでおいてください。

井目

こんな講座ありました

和菓子の時間

2月10日、「東大寺さんのお水取りの花ごしらえ椿」と題し、糊こぼしをつくりました。白あんを主役に、粉類を丁寧に混ぜ合わせ、蒸しあげたものを椿に仕上げていきました。花卉は、裏ごしした黄味あんをつけ、美しい花が咲きました。みなさん、講師の手から生み出される芸術的な和菓子の世界にしばし時を忘れておられました。残念ながら公民館で食べていただくことができないため、お持ち帰りいただきましたが、お家で素敵な和菓子の時間を過ごしていただけたのではないのでしょうか？



公民館へ行ってきます！

2月18日、障がい者応援くらぶなないろはあとの吉元さんを講師にお迎えし、羊毛フェルトボールづくりをしました。小さくちぎった羊毛を手のひらと指先でやさしくコロコロと転がしながら育てていきます。ボール状になる頃には、みなさんすっかり愛着がわいている様子でした。糸を通してモビールとして完成すると、ポップ調、シック調と個性豊かな作品が並びました。ゆっくりと手先を動かしながら、心休まる時間になっていたらいいなと思います。



職員のつぶやき

雨降りそそぐ3月の休日。水たまりをとびこえながら足早に歩くアスファルトの道。揺れる傘の雫が頬に一滴、指先でなぞって足を止める。少し驚いた。水たまりをとびこえていた自分に…。最後にとびこえたのはいつだったかな？記憶に遠い。先を歩く娘がふりむいて、不思議そうに首をかしげる。そうか、あの子の傘…。時にくるりと回る淡いピンクが季節の便りを運んだということか。そう言えばさくらのつぼみ、ふくらみはじめていたな。やさしいけれど、強く記憶に刻まれるその香り、ちいさな花びらが見せる無限の世界。卒業、そして入学をむかえる娘にエール。

水たまりをとびこえるように
軽やかに、しなやかに、
恋せよ乙女…なんてね。



伏見公民館へ赴任して、この3月で1年となります。月日の経つのもあっという間です。考えてみれば、コロナ感染者が最初に国内で確認されたのが2020年1月15日だそうです。コロナの始まりから数えてみれば早いもので、今年の3月で約800日超となります。

長い間皆様方は、辛抱してきたことになりました。誰もが、何の制約も無しに行動できる時期が、いつ来るのかを待ち望んでいることだと思います。当公民館においても、未だ辛抱して頂いていることばかりで大変心苦しく思っております。早く、何の制約も無く皆様方が思いっきり活動して頂けるように願っております。

コロナよ、いいかげんしんどいねん！

(心の叫び) 貴田